

修了評価の方法

評価基準作成者： 西林 周平

評価方法及び合格基準	<p>1 出題範囲</p> <ul style="list-style-type: none">・「(2) 介護における尊厳の保持・自立支援」から「(9) ところとからだのしくみと生活支援技術」までとする。・主にテキストの内容からの出題とする。 <p>2 出題形式</p> <ul style="list-style-type: none">・正誤選択形式、正答選択形式、穴埋め選択形式とする。 <p>3 出題数</p> <p>(1) 試験1 (34問 合計 100点)</p> <p>設問1【科目2】介護における尊厳の保持・自立支援に関する問題 (正誤選択形式3問、各4点)</p> <p>設問2【科目3】介護の基本に関する問題 (正答選択形式3問、各3点)</p> <p>設問3【科目4】介護・福祉サービスの理解と医療の連携に関する問題 (正誤選択形式3問、各3点)</p> <p>設問4【科目5】介護におけるコミュニケーション技術に関する問題 (穴埋め選択形式5問、各3点)</p> <p>設問5【科目6】老化の理解に関する問題 (正誤選択形式3問、各3点)</p> <p>設問6【科目7】認知症の理解に関する問題 (正誤選択形式5問、各2点)</p> <p>設問7【科目8】障がいの理解に関する問題 (穴埋め選択形式3問、各3点)</p> <p>設問8【科目9】ところとからだのしくみと生活支援技術に関する問題 (正誤選択形式9問、各3点)</p> <p>(2) 試験2 (32問 合計 100点)</p> <p>設問1【科目2】介護における尊厳の保持・自立支援に関する問題 (正誤選択形式3問、各4点)</p> <p>設問2【科目3】介護の基本に関する問題 (正答選択形式3問、各3点)</p>
------------	---

設問3【科目4】介護・福祉サービスの理解と医療の連携に関する問題
(正誤選択形式3問、各4点)

設問4【科目5】介護におけるコミュニケーション技術に関する問題
(正答選択形式5問、各2点)

設問5【科目6】老化の理解に関する問題
(正誤選択形式3問、各4点)

設問6【科目7】認知症の理解に関する問題
(正答選択形式3問、各3点)

設問7【科目8】障がいの理解に関する問題
(穴埋め選択形式3問、各3点)

設問8【科目9】こころとからだのしくみと生活支援技術に関する問題
(正誤選択形式9問、各3点)

4 合否判定基準

- ・60点以上とする。

5 不合格になったときの取扱い

- ・結果発表後、翌日以降で再試験を実施する。
なお、再評価に係る合格基準は60点以上とする。
- ・再試験に関して、試験前に1時間程度の補習を実施し再試験を行う。
再試験料：1回あたり2,000円(補習含む)とする。
- ・再試験は、最大3回までとし、不合格となった者は未修了扱いとする。

